

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
府中町立府中小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	105	128	149	122	130	136	770	37	807

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	6	4	3	12	
理科	5	2	3	6	

授業時数 計 18 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 18 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	A	D	B	推進	専科	C	C	D	C	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	A	A	D	B	推進	専科	C	C	D	C	B	B	B
6年 3組 (担任: C)	A	A	D	B	推進	専科	C	C	D	C	C	C	C
6年 4組 (担任: D)	A	A	D	B	推進	専科	C	C	D	C	D	D	D
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 3組 (担任: E)	E	E	E	E	推進	専科	E	E	E	E	E	E	E
5年 4組 (担任: F)	F	F	F	F	推進	専科	F	F	F	F	F	F	F

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	34	A	6-2	国語	5	15	9	24
			6-3	国語	5			
			6-4	国語	5			
6-2	34	B	6-1	算数	5	15	9	24
			6-3	算数	5			
			6-4	算数	5			
6-3	34	C	6-1・2・4	外国語	6	15	9	24
			6-1・2・4	図工	4.2			
			6-1・2・4	家庭科	4.8			
6-4	34	D	6-1・2・3	社会	9	16.8	9.6	26.4
			6-1・2・3	体育	7.8			
5-1	32	G				0	24.6	24.6
5-2	32	H				0	24.6	24.6
5-3	33	E				0	24.6	24.6
5-4	33	F				0	24.6	24.6

## 5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<p>〈効果のあった取組〉</p> <p>① 理科の学習では、月の形が変わる理由を再現し、まとめる体験活動や、水溶液の種類を見分ける実験でのテストを行うなど、児童が意欲的に思考する場面を多く仕組むことができた。</p> <p>② 各担任との連携をより綿密にし、児童実態を早期に捉え、学習規律や学び方を継続して指導した。週に一度の学年会では気になる児童の様子を共有した。また問題があった時は生徒指導主事と連携した。</p> <p>③ 教科担任制を取り入れたこと自体が、中学校での学び方に近づいた。また各教科において、より発展的な内容に触れることで小・中の学習内容の連続性を意識した指導になった。</p> <p>④ 教材の選定や、管理を一括にすることができた。週案を統一し3～5週先まで組むようにした。</p> <p>⑤ 学年週案一覧表を取り入れたことにより、週案を統一化した。また教科ごとに時間割を色分けしたことで教師目線で見やすくする工夫を取り入れた。</p>	<p>〈成果〉</p> <p>① 体験学習を通して思考する場面が増えたことで、理科の思考・判断・表現では80%を上回る児童が72.8%と目標の70%を上回ることができた。</p> <p>② 各担任の連携を綿密にしたことで、児童の様子の変化に気付きやすくなった。児童への積極的な声掛けや何かあった時にはすぐに対応ができた。「自分の学級は、仲間と安心して過ごすことができます。」の肯定的回答は93.9%と高い数値を維持することができた。</p> <p>③ 中学校進学に関する意識調査で、肯定的回答は96.6%と9月より11.3%のび、目標の80%を上回った。また「教科担任制で学ぶことで、勉強の内容がよく分かるようになりました。」の肯定的回答は、83.9%と9月よりも2%増加した。</p> <p>④ 効率的な授業準備と、各担任の業務量を削減できた。先の予定を立てておくことで、細かい調整をしやすくなった。</p> <p>⑤ クラスごとに作成する必要がなくなったことで負担が減り、時数調整もしやすくなった。</p>
<p>〈課題〉</p> <p>① 教科によっては週の前半2日で指導が終わってしまうため、内容の連続性が損なわれたり、教師主導の授業になりがちである。</p> <p>② 各教科の学習内容について「教科担任制で学ぶことで、分からないことや困ったことを相談できる先生が増えました。」の肯定的回答は79.5%と9月時点よりも12.3%増えたが、80%を下回っている。</p> <p>③ 教科での指導内容が発展的になることで、困難さを抱える児童が学習への不安を感じている様子も見受けられる。</p> <p>④ 専科教員は複数の学級を連続して指導することになるため、準備が間に合わないことがある。休憩時間が5分だと時間通りに授業が開始できない場合がある。</p> <p>⑤ 各担任が特定の教科の指導から遠ざかり、スキルアップが難しくなる。専科(音・理)と各担任の週案が別々なため、目視で整合性を確認する必要があること。</p>	<p>〈対策〉</p> <p>① どの教科でも単元全体の見通しを児童が把握できるよう、統一した振り返りシートを使う。また学年全体として学級力を高める指導を充実していく必要がある。</p> <p>② 専科の教員も授業外の時間に児童と関わる時間を確保すること。授業の中で気になる児童を学年で共有し、相談に乗るなど個々に対応していく。</p> <p>③ 個々の進度に合わせた学習方法を選択できるような授業づくりをすること、地域ボランティアを活用するなど内容によっては複数の教員で対応する。</p> <p>④ 朝の会からの流れでスムーズに授業が開始できるよう、朝の会後の1校時は学級担任が実施する教科で時間割を編成する。</p> <p>⑤ 専科指導の専門性を共有するため、活動や実験を中心に授業をしない各担任が可能な範囲で立ち会うようにする。また学年の週案は1つのエクセル上で統一する。</p>